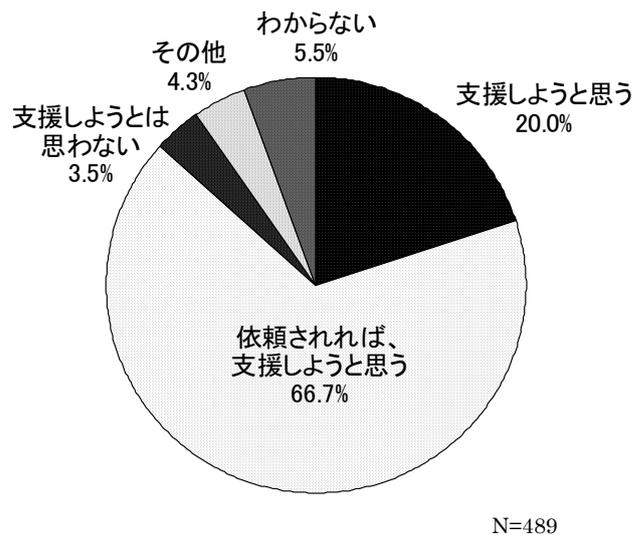


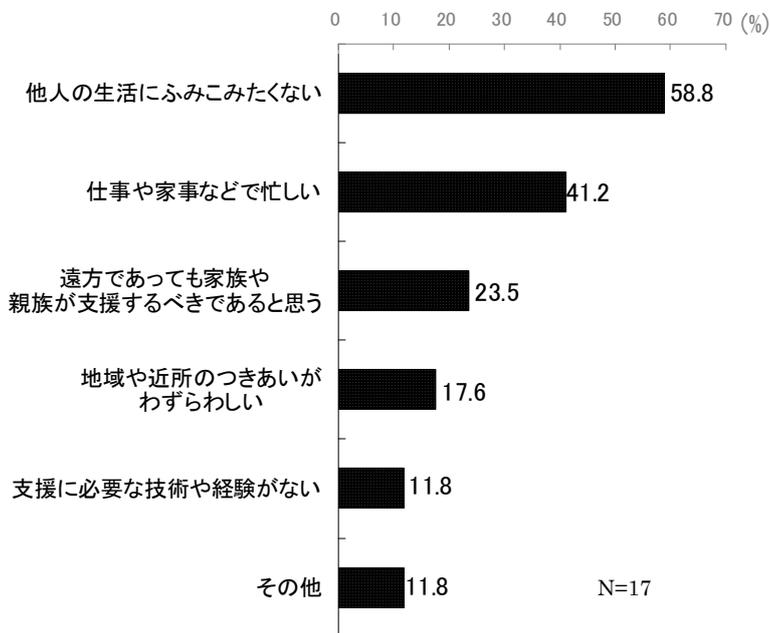
問 2 (1) 高齢者が地域で生活していくためには、公的な福祉サービスだけではなく、地域の住民間の支えあいが重要だと言われています。こうした支援をすることについてどう思いますか。

- 「支援しようと思う」「依頼されれば、支援しようと思う」をあわせ 86.7%と、身近な地域における住民間への支援への意識が高いものであることが分かりました。年代別にみると、60代以上で積極的に支援しようと思う方の割合が高く、地域における住民間の支えあいにおいて、大きな力となることが期待されます。



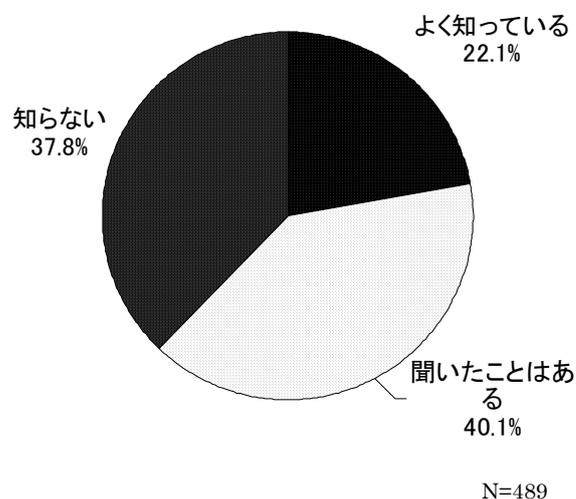
問 2 (2) 『問 2 (1) で「3 支援しようと思わない』と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。(複数回答あり)』

- 「他人の生活にふみこみたくない」が 58.8%、「仕事や家事などで忙しい」が 41.2%、「遠方であっても家族や親族が支援するべきであると思う」が 23.5% などとなっています。



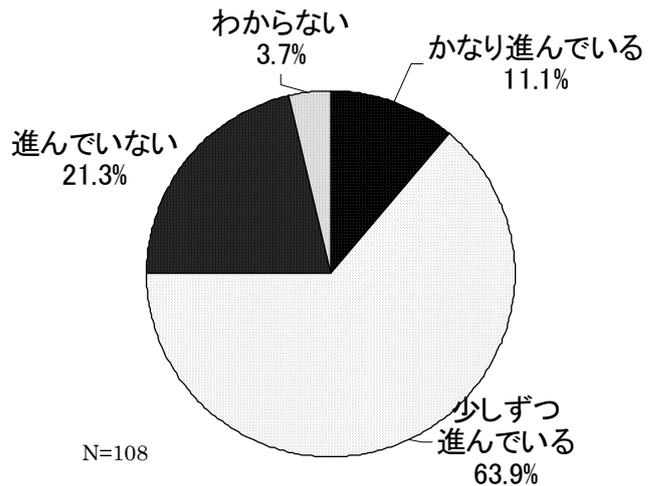
問 3 (1) 障害のある人もない人も、誰もが地域で普通に生活することのできる社会づくり（いわゆる「ノーマライゼーション」）をご存知ですか。

- 平成 9 年度にも同様の質問を行っていますが、「よく知っている」17.3%→22.1%、「聞いたことがある」28.0%→37.8%、「知らない」54.0%→37.8%と、ノーマライゼーションの理念が徐々に浸透していることが分かります。
「知らない」と答えた方も、依然 37.8%あり、より一層の啓発が必要であると考えます。



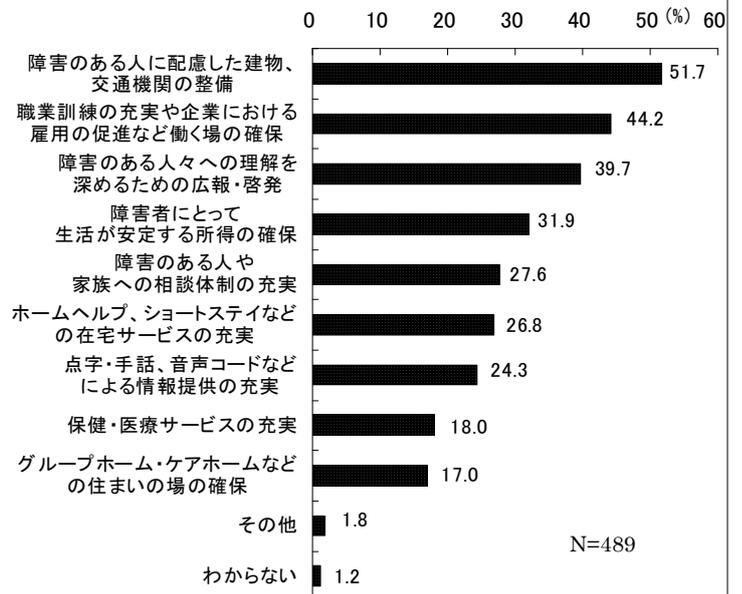
問3(2) 『問3(1)で「1よく知っている』と答えた方にお尋ねします。こうした社会づくりは、10年前と比べて進んでいると思いますか。

○ 「かなり進んでいる」が11.1%、「少しずつ進んでいる」が63.9%で、これらを合わせた「進んでいる」が75.0%に対し、「進んでいない」は21.3%となっています。



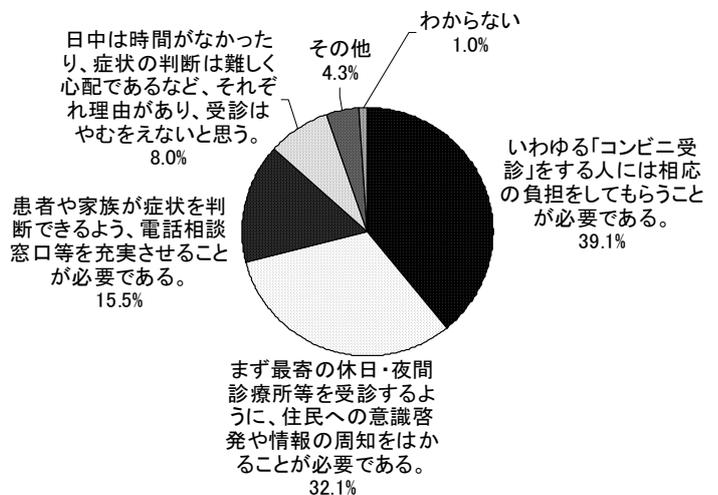
問4 ノーマライゼーションの理念のもと、障害のある人も施設や病院で生活するのではなく、まちの中で普通に生活を送ることが目指されています。そのためにどんなことが重要となるとお考えですか。

○ 「建物、交通機関の整備」「働く場の確保」「広報・啓発」に関する項目が上位を占めていますが、それ以外の様々な施策にも比較的回答が分散しており、障害のある人の地域生活に関しては、幅広い分野でのきめ細やかな施策が求められているものと考えます。



問5 安易に夜間の救急医療を利用する人が増えていることが指摘されています。こうした状況は「コンビニ受診」とも言われ、その結果、救急車で搬送された重症患者への対応が困難になる恐れも指摘されていますが、これについてどうお考えですか。

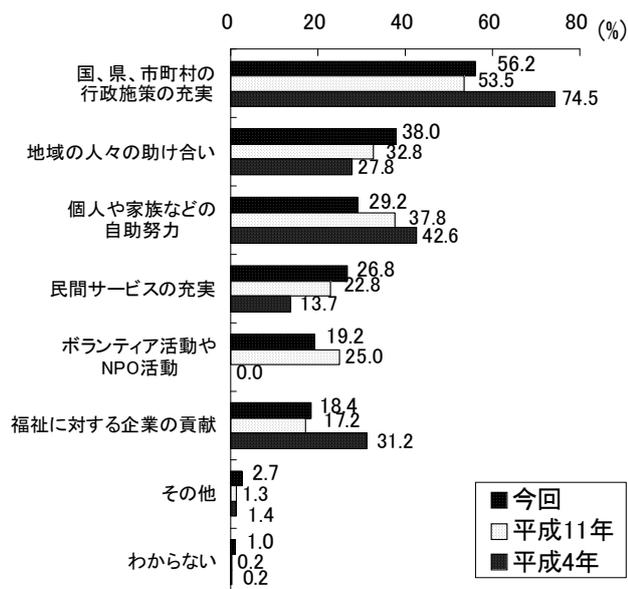
○ 「相応の負担をしてもらう必要がある」「啓発や周知が必要である」「電話相談窓口等の充実が必要である」とコンビニ受診についての田対策の充実を求める項目があわせて86.7%になっています。また、自由記載意見でも、コンビニ受診や救急医療に関する意見が多く、救急医療に対する関心の高さがうかがえます。



問6 今後、福祉サービスの需要が増大すると思われませんが、そうした中で特に重要となってくることは次のうち何だと思えますか。(複数回答あり)

○ 平成11年度等にも同様の質問を行っております。「行政施策の充実」や「自助努力」が減少傾向にある一方、「地域の人々の助け合い」や「民間サービスの充実」については増加傾向にあり、今回の調査では「地域の人々の助け合い」が、2番目に多い回答となっています。

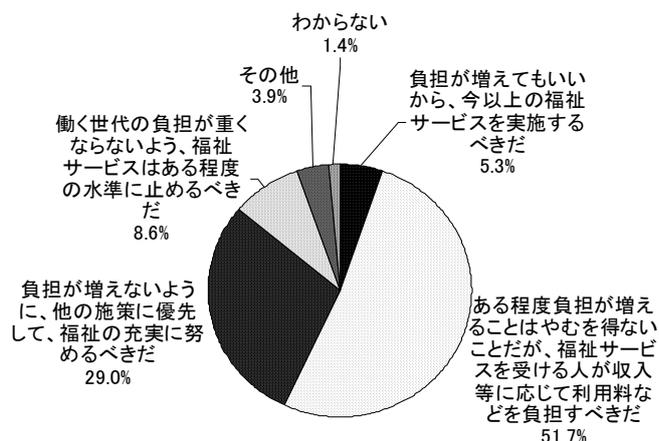
問2における住民間の支えあいの意識の高さもふまえ、今後は地域の支えあいの仕組み作りに取り組むことが重要であると考えます。



N=489

問7 少子・高齢社会の進行に伴い、これからの福祉サービスを充実していくためには相応の経費が必要となり、税金や社会保険料などの負担が増加することが考えられますが、次のうちあなたの考えはどれに近いですか。

○ 過去にも同様の質問を行っていますが、今回含め一貫して「ある程度の負担が増えることはやむを得ないが、サービスを受ける人が収入等に応じて利用料などを負担すべき」が、約50%を占めています。他の項目の割合も、大きな変化は認められません。



N=489